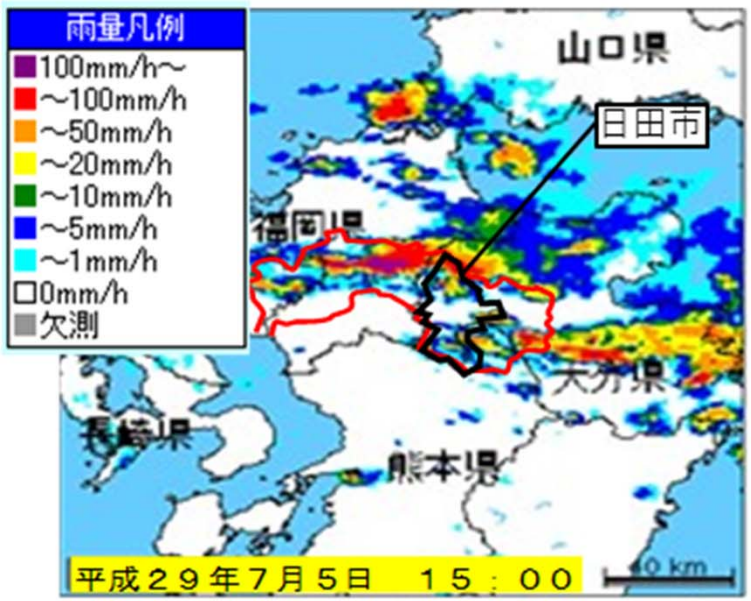
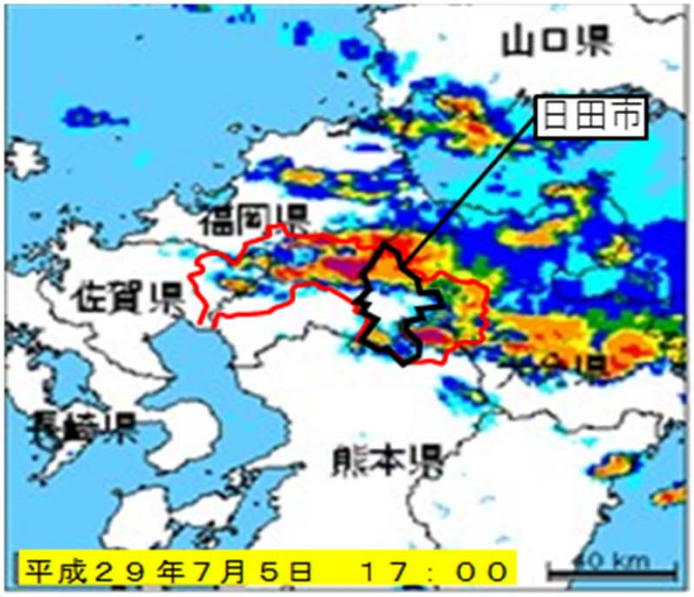
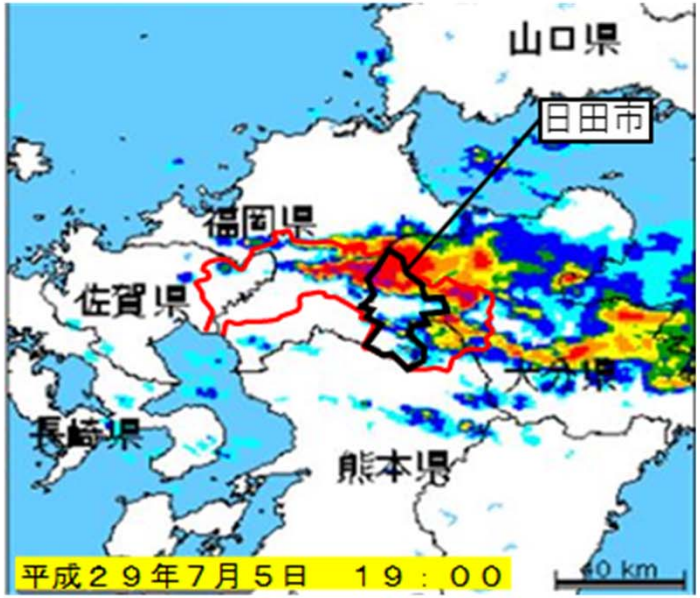
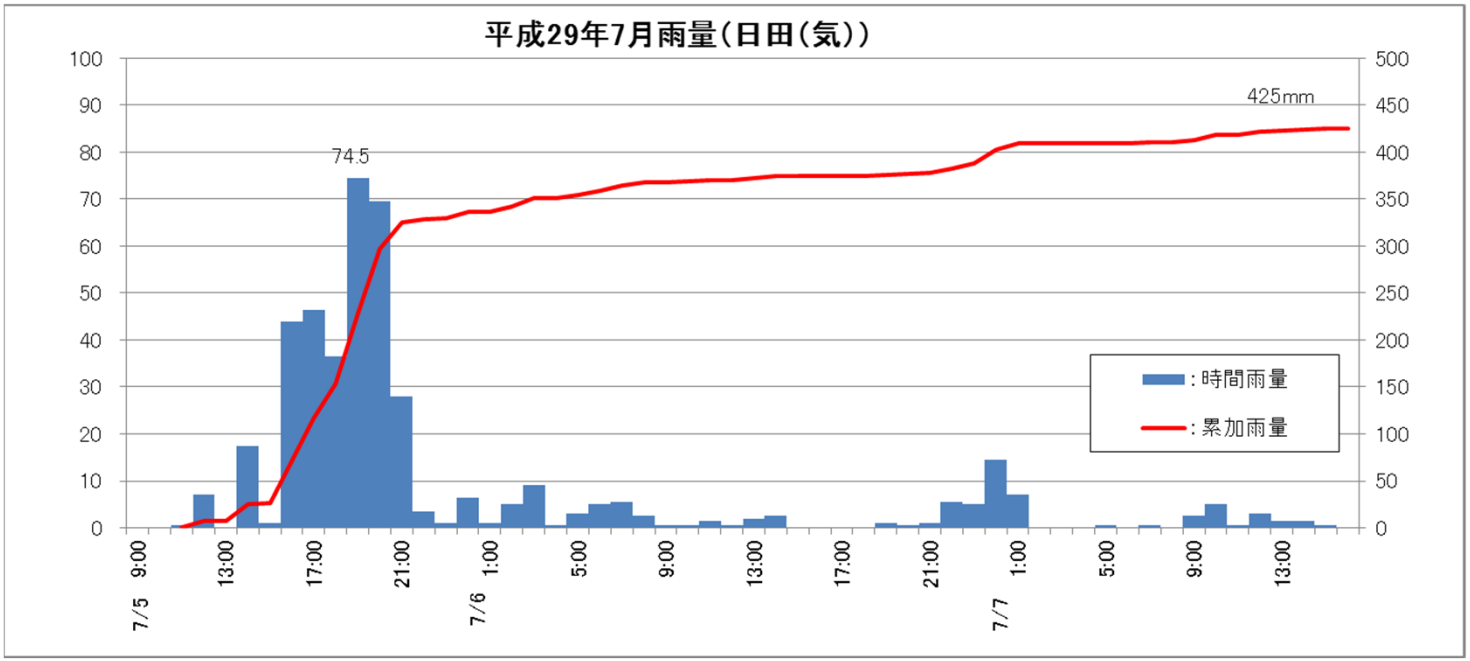
■平成29年7月5日、昼頃から夜にかけて、朝倉市から日田市北部において観測史上最大の降雨を記録。

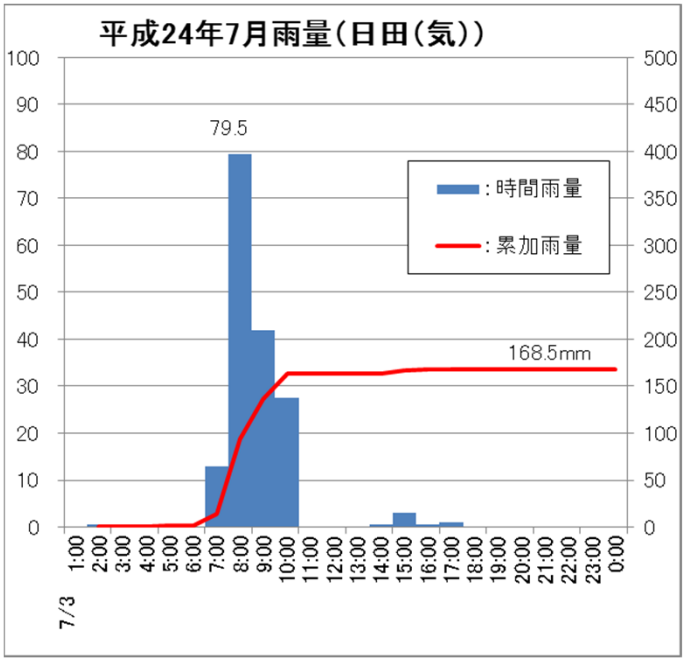
資料－３





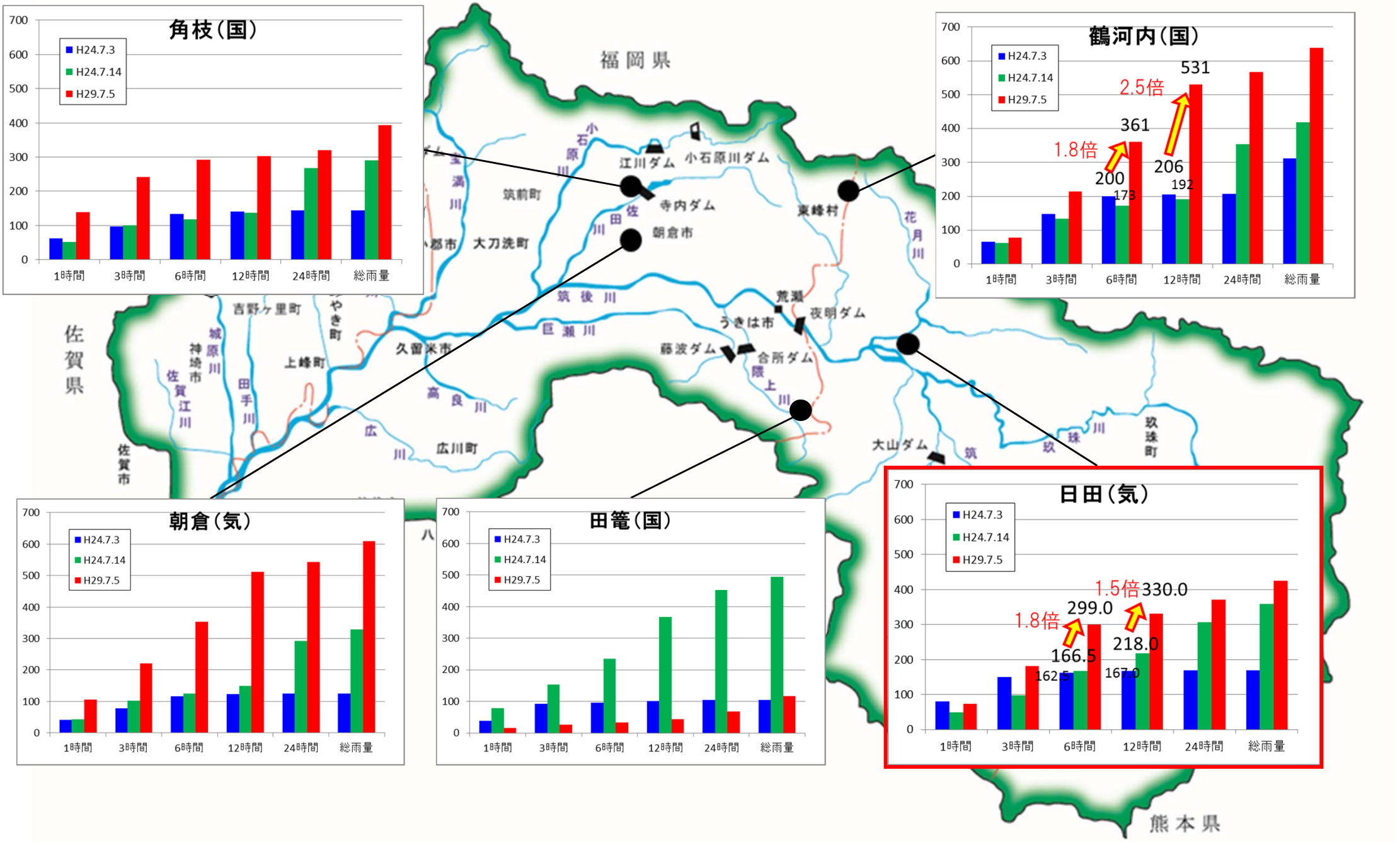






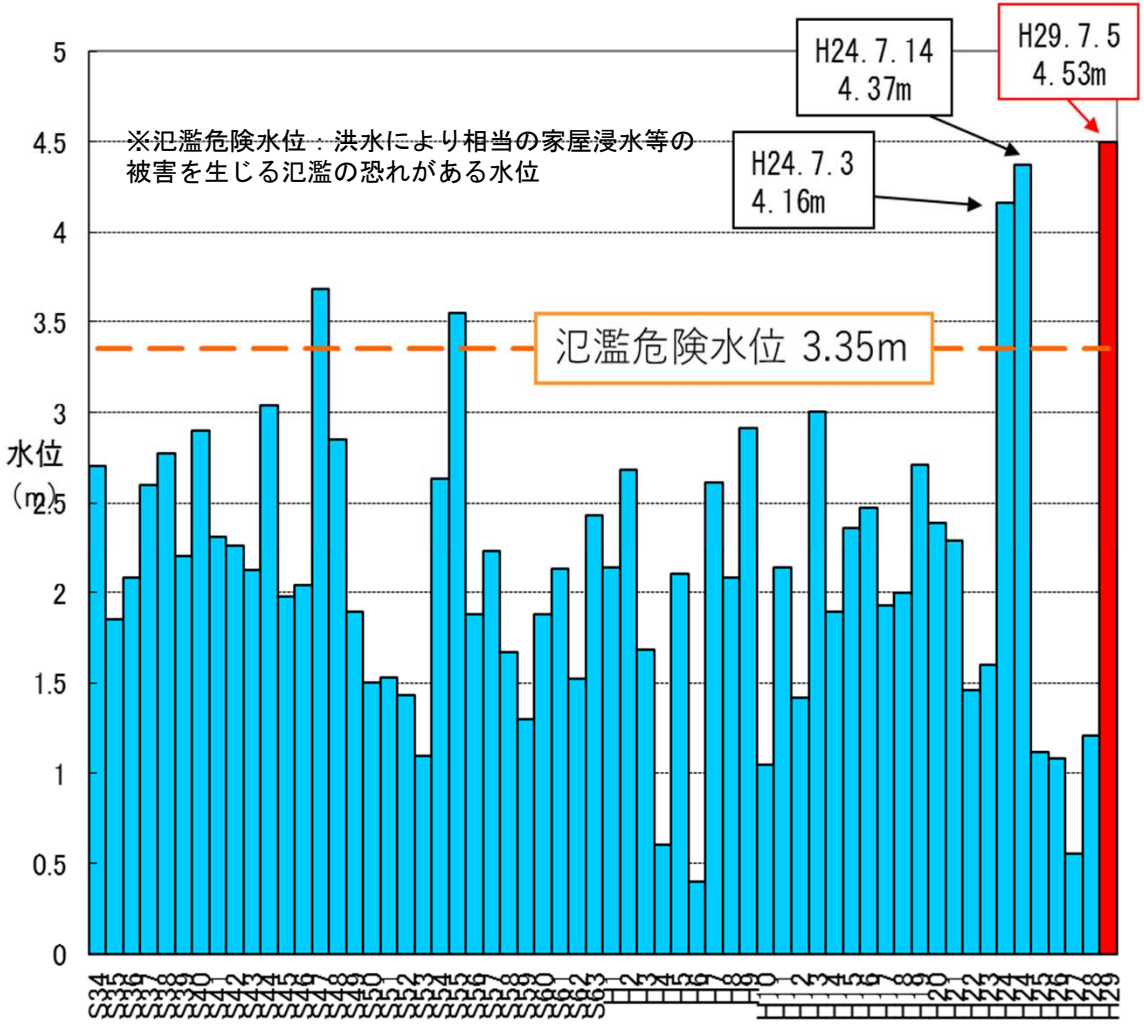
※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

■ 6時間雨量［鶴河内：H29.7 は H24.7 の 1.8倍　日田：H29.7 は H24.7 の 2.5倍］　■ 12時間雨量［鶴河内：H29.7 は H24.7 の 1.5倍］

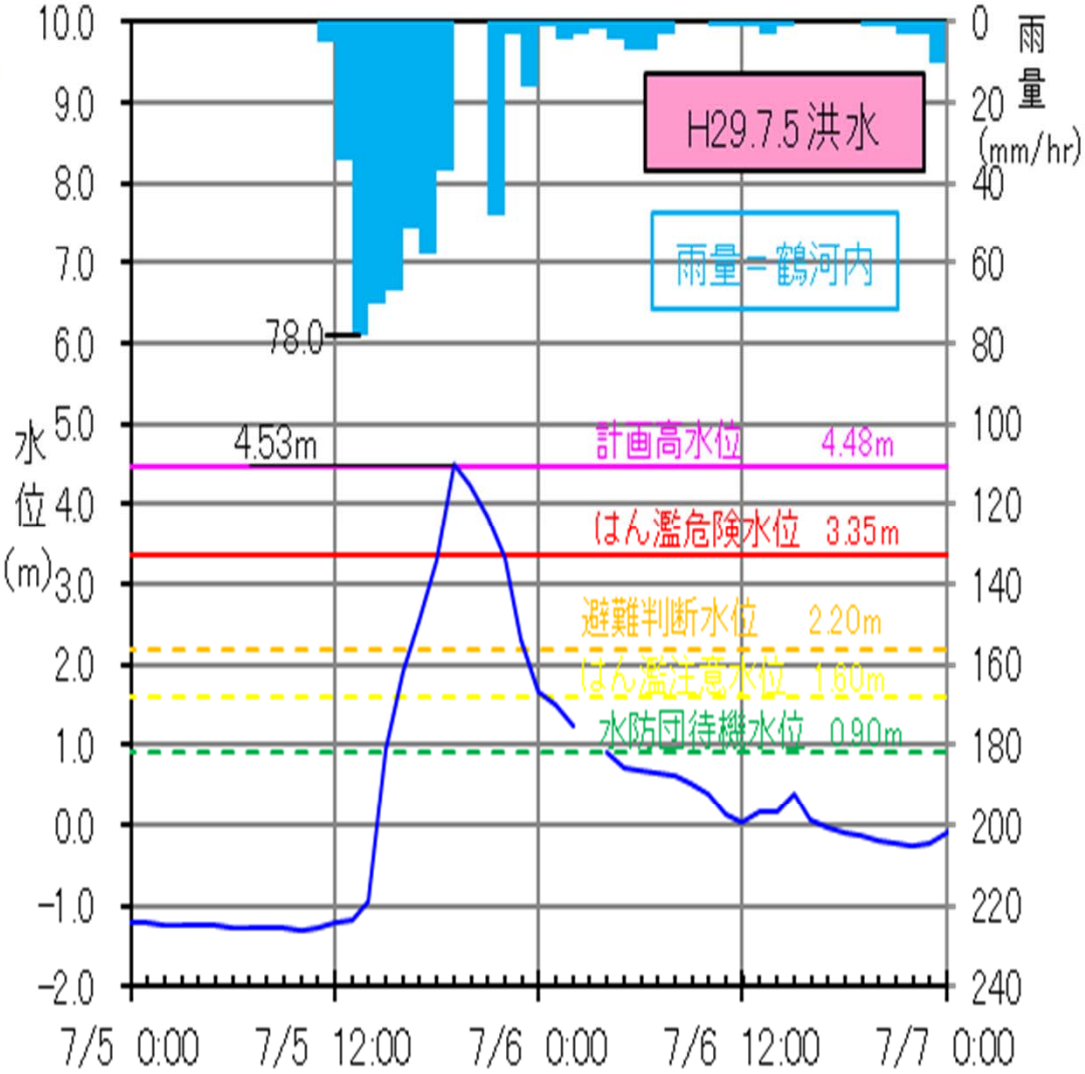


■平成29年7月出水では花月水位観測所において、氾濫危険水位を４時間超過。
平成24年7月水位を上回る、観測史上最高水位を記録。

年最高水位比較図（花月水位観測所）



平成29年7月洪水　水位の状況（花月水位観測所）



※花月水位観測所　所在地：花月川3.38km地点（日田市丸の内町）　零点高：T.P. 80.5m

※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

平成29年7月出水による花月川の浸水被害

■梅雨前線に伴う平成29年7月5日出水により、花月川沿川では、家屋浸水844戸、浸水面積86haの浸水被害が発生した。
■H24年出水では堤防決壊や越水による外水氾濫が発生し、特に右岸側へ広く氾濫が拡大した。H29年出水は既往最高水位を記録し、越水が発生したが堤防決壊は発生せず、高強度降雨が長時間継続したことによる内水被害が発生した。

平成29年7月洪水による浸水被害

国管理区間の被害状況			H24. 7/3 洪水	H29. 7/5 洪水
浸水区域面積		ha	121. 3	86
家屋被害	床上浸水	戸	414	282
	床下浸水	戸	306	562

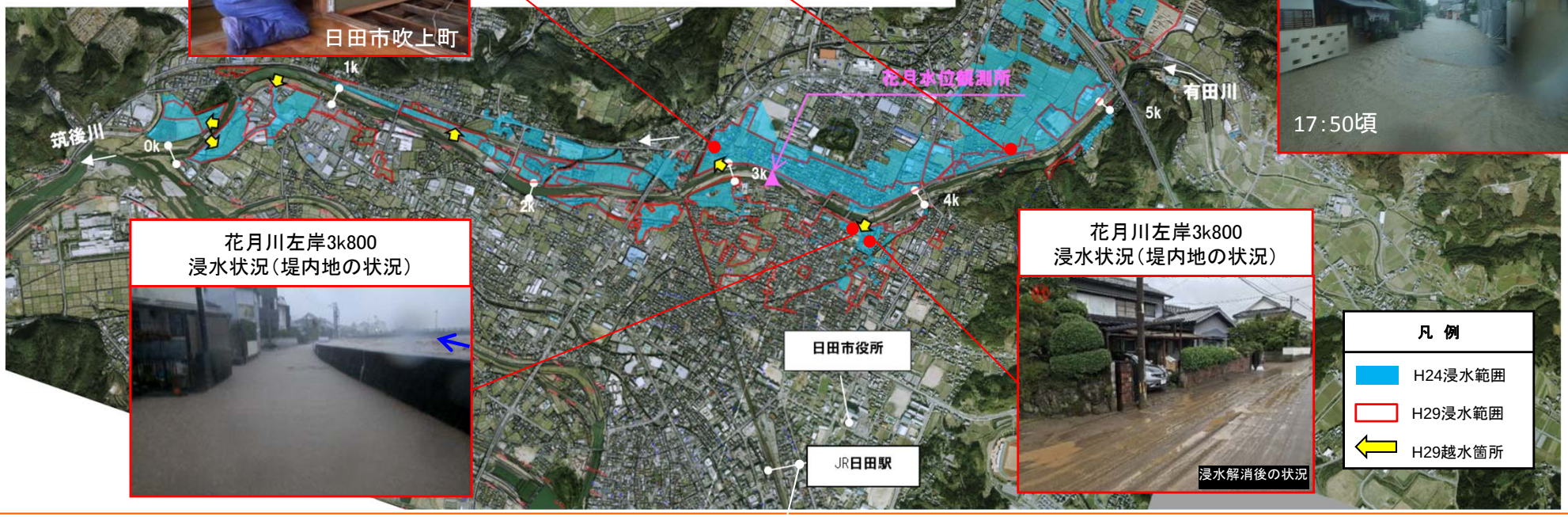
※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

花月川右岸7k600
溢水状況（上流を望む）

花月川右岸4k500
浸水状況（堤内地を望む）

花月川右岸3k000
浸水状況（屋内）

花月川右岸7k800
浸水状況（堤内地）



花月川左岸3k800
浸水状況（堤内地の状況）

花月川左岸3k800
浸水状況（堤内地の状況）

平成29年7月出水による花月川の施設被害

■各所で堤防欠損や護岸損傷が発生し、JR久大線の鉄道橋が流失する等、甚大な被害が発生した。

平成29年7月洪水による施設被害

※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

花月川の堆積土砂撤去について（H29.12～H30.6）

■平成29年7月九州北部豪雨において花月川の河道内に堆積した土砂の撤去を実施しており、平成30年4月末までに約12万6千㎥の堆積土砂の撤去を行った。
■引き続き土砂の撤去を行い、出水期に入る前（花月川では6月11日から9月30日までが出水期）までに、約13万3千㎥（25mプール約370杯分※）の堆積土砂の撤去を行う予定。

※25mプールを360㎥で換算（幅12m×長さ25m×深さ1.2m=360㎥）

災害復旧（本復旧）が今年の１０月以降に施工予定の箇所

■今年の１０月まで本復旧工事に着手出来ない箇所は概ね下記のとおりです。万一の事態に備えて迅速な情報収集、地域住民の避難及び水防活動等をお願い致します。

- 花月川左岸０ｋ400付近、右岸０ｋ５００（三郎丸橋両岸）
- 花月川左岸６ｋ400付近（髪永井堰左岸）
- 花月川両岸７ｋ400付近（風呂元井堰両岸）

花月川　右岸　0k500付近
低水部護岸崩落

花月川　左岸　0k400付近
低水部護岸崩壊

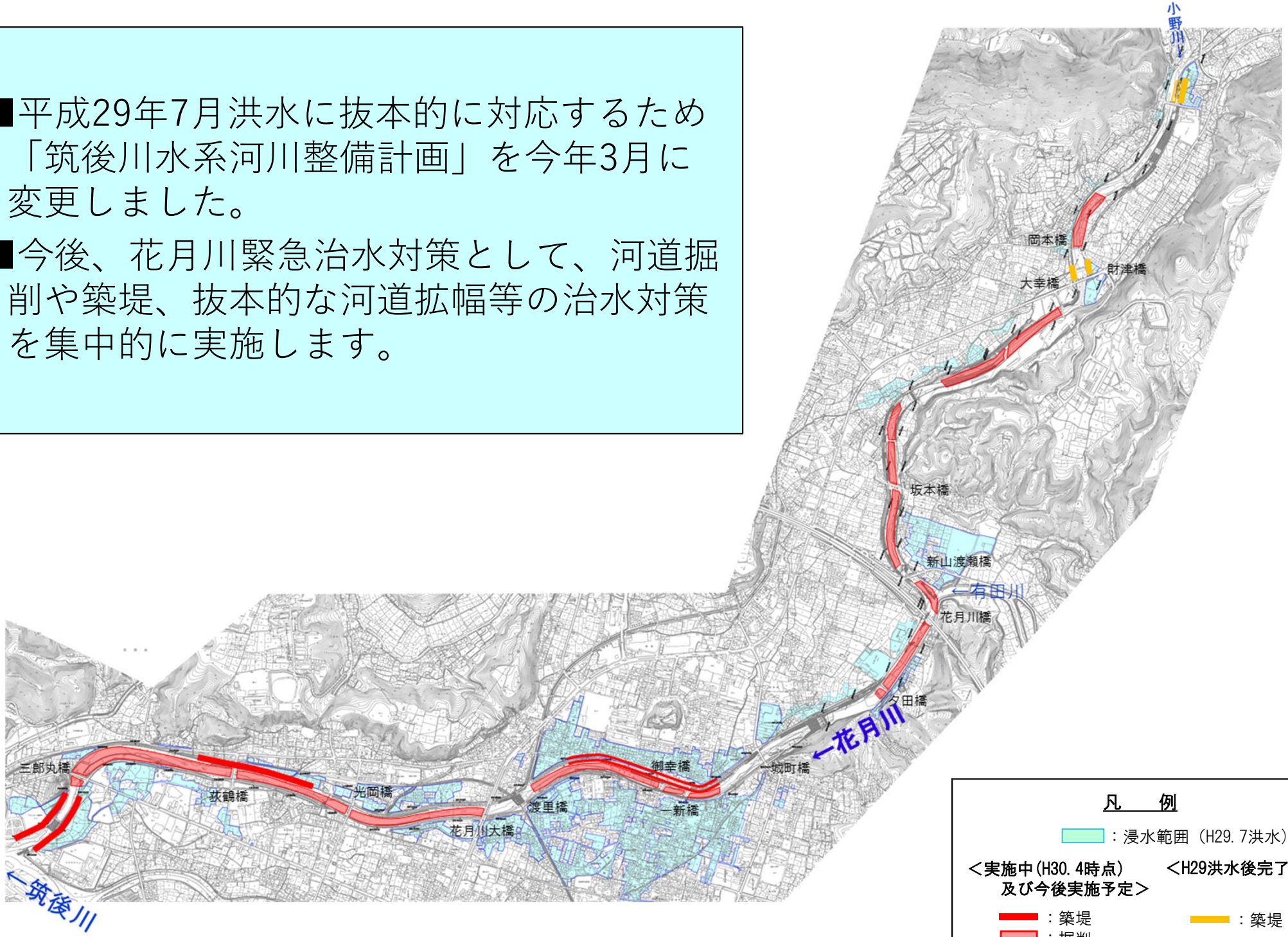
花月川　左右岸　7k400付近
低水部護岸崩壊

花月川　左岸　6k400付近
低水部護岸崩壊

凡例
- 堤防浸食
- 低水部護岸崩壊
- 高水敷等浸食等

■平成29年7月洪水に抜本的に対応するため「筑後川水系河川整備計画」を今年3月に変更しました。

■今後、花月川緊急治水対策として、河道掘削や築堤、抜本的な河道拡幅等の治水対策を集中的に実施します。



凡　例

：浸水範囲（H29.7洪水）

＜実施中(H30.4時点)及び今後実施予定＞

：築堤
：掘削
：河道拡幅

＜H29洪水後完了＞

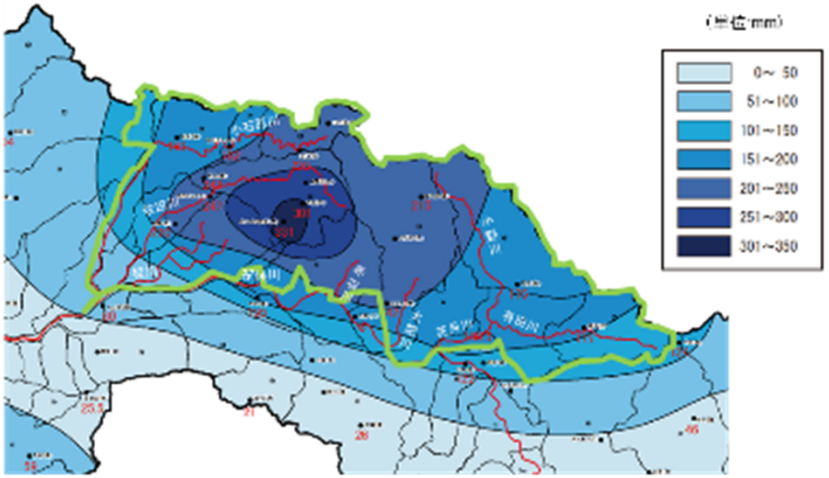
：築堤
：掘削

※施行の場所については、今後の詳細な検討等により変更が生じる場合があります。
※今後実施予定にて上記明示以外に堰改築等を予定しています。

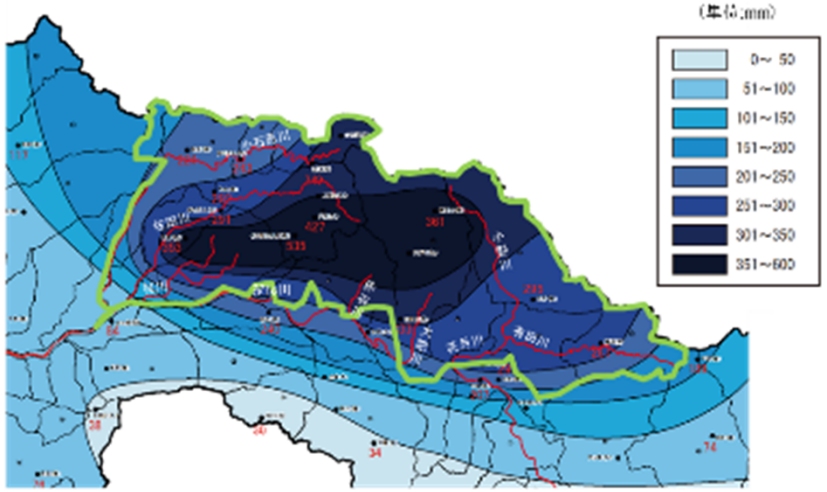
平成２９年九州北部豪雨災害の概要（災害の特徴①）

●猛烈な雨がほとんど同じ場所で降り続いた

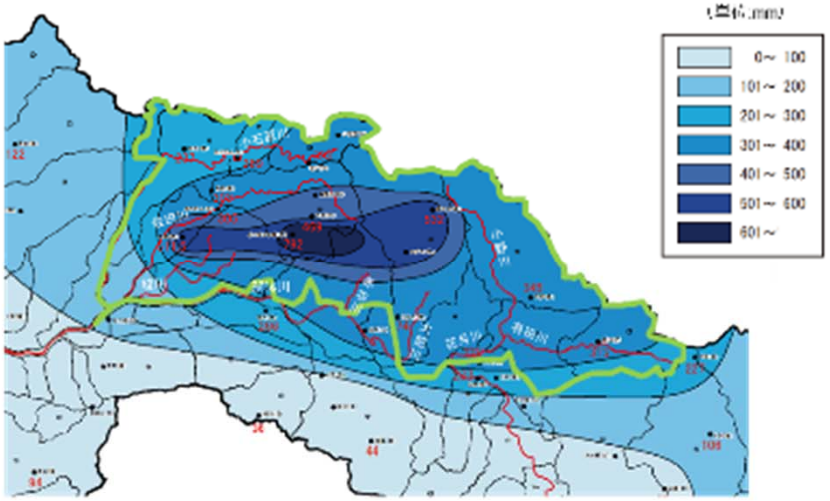
3時間雨量



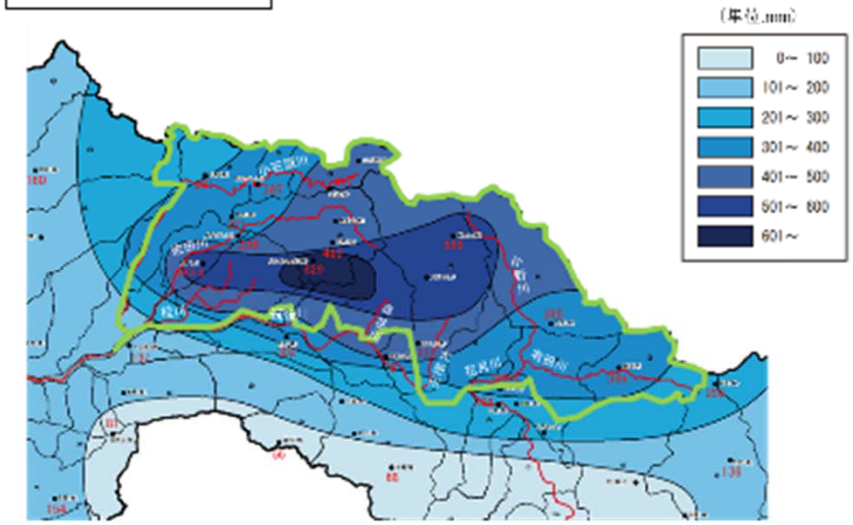
6時間雨量



12時間雨量



24時間雨量



筑後川右岸流域における等雨量線図（各観測所最大雨量）

平成２９年九州北部豪雨災害の概要（災害の特徴②）

●大量の土砂や流木が流出

平成２９年九州北部豪雨災害の概要（災害の特徴③）

●それらの流木や土砂が谷底平野に押し寄せた

【谷底平野について（国土地理院資料）】

図1-4　写真１の模式図

多摩川の両岸には複数の段丘があることがわかります。青梅（おうめ）市の市街地は主に段丘面の上に広がり、谷底平野はこれまで主に公園やグラウンドなどに利用されていましたが、最近では住宅もできるようになり、大雨時の洪水に注意が必要です。

赤谷川流域の事業の流れ

九州地方整備局
Kyushu Regional Development Bureau
国土交通省 筑後川河川事務所

河川（権限代行工事）

九州北部豪雨（平成29年7月5日）

福岡県知事より応急復旧要請
平成29年7月14日（金）

応急復旧工事着手
応急復旧工事の権限代行を決定
平成29年7月19日（水）

▲小川知事から増田局長に要望書を提出

▲土砂や流木の撤去に着手

福岡県知事より本復旧要請
平成29年11月30日（木）

砂防（直轄砂防事業）

応急対策工事着手（直轄砂防災害関連緊急事業）
平成29年8月15日（火）

福岡県知事より要請
平成29年8月10日（木）

▲工事用道路の造成に着手

▲現地で報道関係者に復旧工法の説明を実施

九州北部緊急治水対策プロジェクト
平成29年12月1日（金）

事業着手
本格的な復旧工事の権限代行を決定

特定緊急砂防事業に着手

赤谷川における復旧の基本的な考え方

（河川事業・砂防事業・地域の対策が連携した復旧）

九州地方整備局
Kyushu Regional Development Bureau
国土交通省 筑後川河川事務所

○一定程度の降雨に対して、山地部における土砂・流木流出を防止するための砂防堰堤等の整備、河川上流における河道に流入した土砂・流木を捕捉するための貯留施設の整備、洪水・土砂を下流まで円滑に 流すための河道の改修・河道形状の工夫により、土砂・流木を伴う洪水氾濫を防止。
○地域と一体となって今回の災害と同規模以上の降雨に対して、さらに安全性を高めるためのソフト対策、まちづくりの検討を実施。

山地部（発生域） 土砂・流木の流出を防止する

○ **土石流・土砂・流木の流出を防止するための砂防堰堤等の整備（30渓流）**

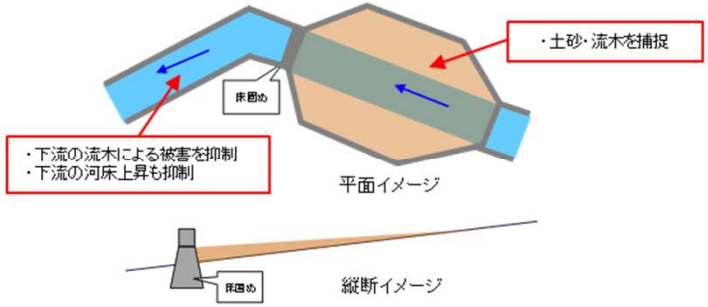
○ **土砂流出量の経年変化（減少）に応じて砂防堰堤の構造を変更（不透過型→透過型）するための工夫の実施**

不透過型の砂防堰堤

透過型の砂防堰堤

上流域 土砂・流木を捕捉する

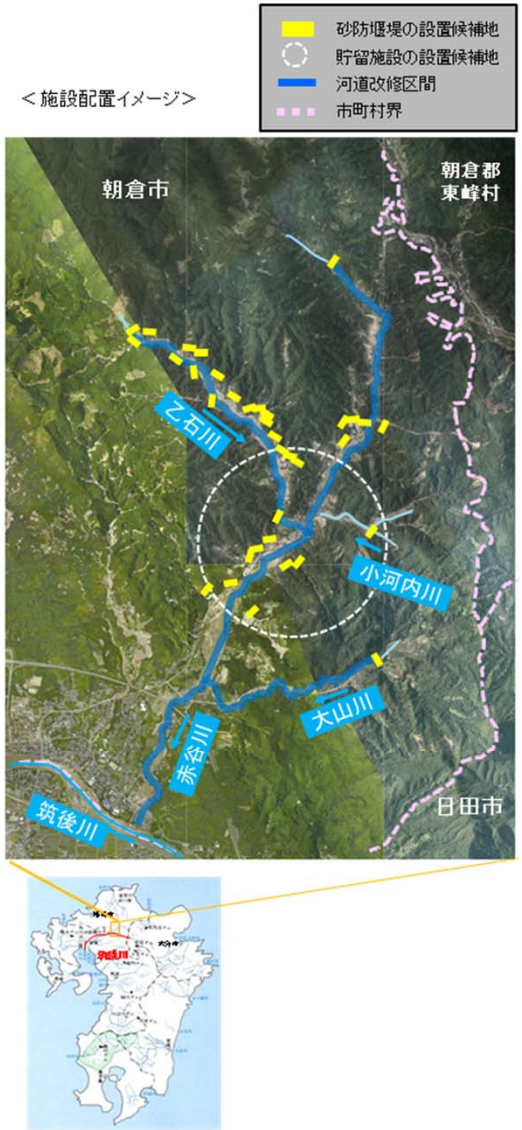
○ 河道に流入した土砂・流木の下流への流出を抑制するための貯留施設の整備



住宅地に氾濫する土砂・流木

橋梁に集積する流木

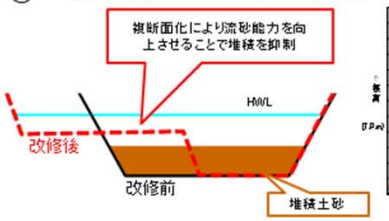
＜施設配置イメージ＞



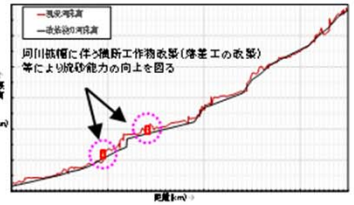
中流域～下流域 洪水や土砂を円滑に流す

○ 一定規模の降雨を流下させるための河道の改修（赤谷川: 1／50規模）

○ 流砂能力を向上させるための河道形状の工夫



横断形状を複断面化

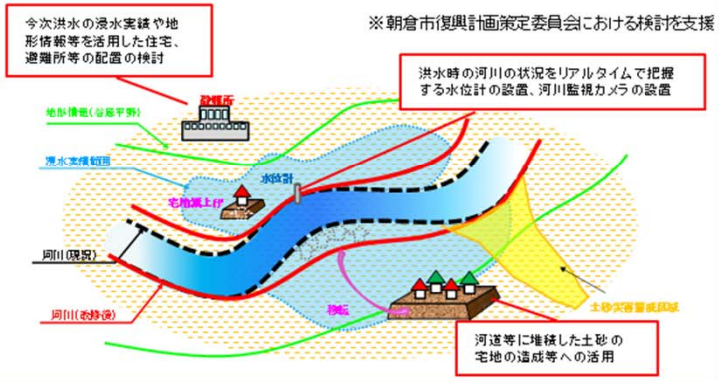


縦断勾配の局所的な変化等を是正

地域と一体となって激甚な災害に備える＜提案＞

○ 今回の災害と同規模以上の降雨に対して、さらに安全性を高めるためのソフト対策、まちづくりの検討

※朝倉市復興計画策定委員会における検討を支援



土砂流出量の変化に順応的に対応する

○ 山地からの土砂流出や河道内の土砂堆積・洗掘等のモニタリングの実施

今後の対応（河川）

九州地方整備局
Kyushu Regional Development Bureau
国土交通省 筑後川河川事務所

九州北部緊急治水対策プロジェクト　筑後川水系赤谷川 等（河川）

【＜河川＞赤谷川災害復旧（一定災）】

○平成29年7月の九州北部豪雨において大量の土砂や流木等により甚大な被害が発生した筑後川水系赤谷川等において権限代行により緊急的に流路の確保を実施。（7/18～）

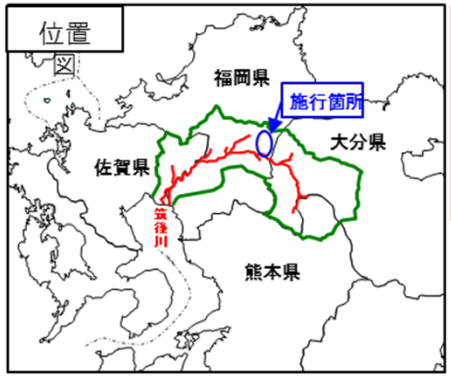
○今後、赤谷川等の治水安全度を高めるため、川幅を広げ、急な湾曲区間をゆるやかにして流れやすくするとともに流木等の貯留施設整備など、本格的な改良復旧工事を実施。

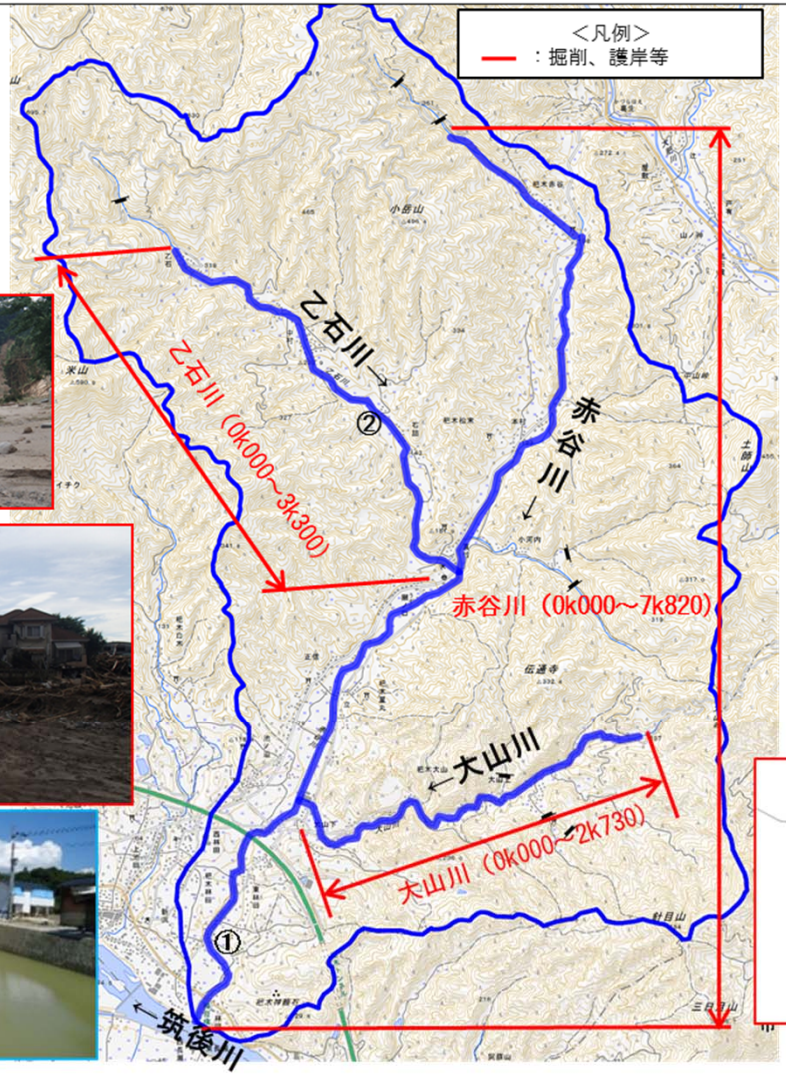
【筑後川水系赤谷川、大山川、乙石川】
事業費合計：約３３６億円

○主な事業内容
・河道整備（掘削、護岸）、流木等貯留施設 等

○実施事業
・災害復旧（一定災）　約３３６億円
・事業期間：概ね５年

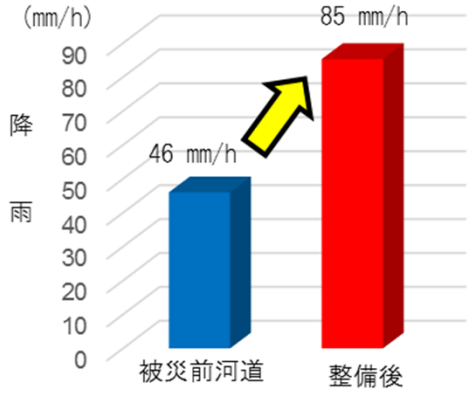
位置図



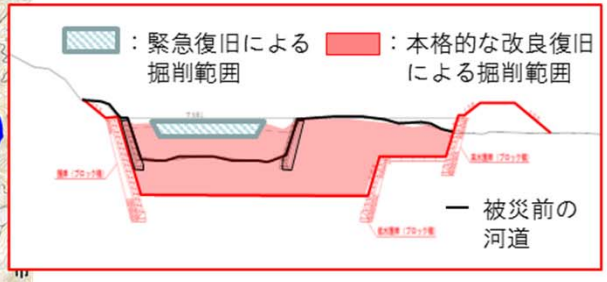


【改良復旧による整備効果】

	被災前河道		整備後
１時間あたりの降雨	46mm/h	→	85mm/h
（洪水の確率規模	1/3	→	1/50 ）



赤谷川　整備イメージ



【緊急災実施状況】

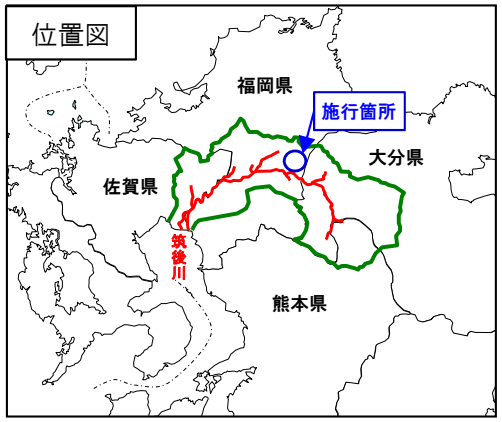
今後の対応（砂防）

【筑後川水系赤谷川（あかたにがわ） 等＜砂防事業＞】

○ 筑後川水系赤谷川流域において、現在、流域内に堆積した不安定土砂等の再移動による二次災害を防ぐための緊急的な仮設の砂防工事を実施しています。（ワイヤーネット、土砂止め工、除石については完了。大型土のう及び袋詰め玉石等による応急対策は引き続き実施）

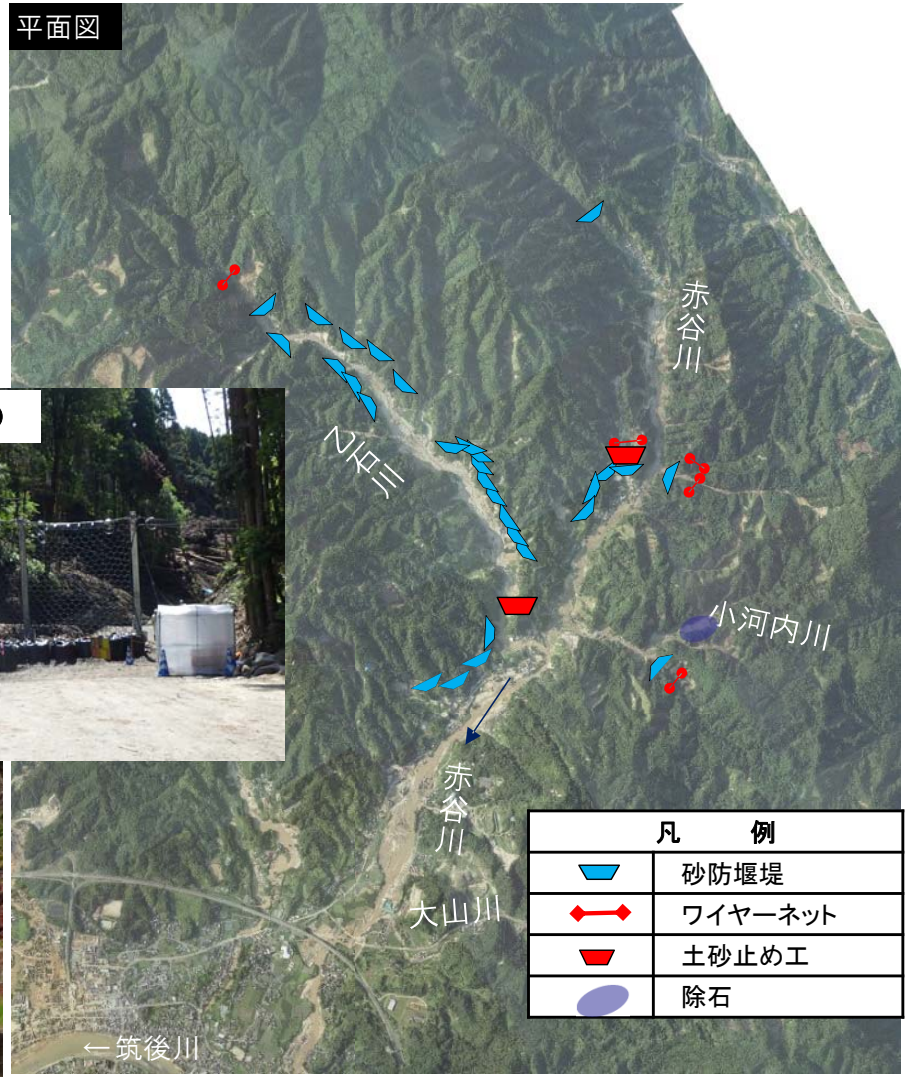
○ 今後、流域全体の土砂洪水氾濫を防止するため、発災後概ね5年間で集中的に本設の砂防堰堤の整備を実施します。

位置図



事業名	（災関＋推進）事業	特緊事業
事業費	約27億円（災関） 約5.4億円（推進費）	約175億円
整備内容	砂防堰堤工9基 応急対策として強靭ワイヤーネット5基、土砂止め工2基など	砂防堰堤工21基
備考	強靭ワイヤーネット及び土砂止め工等については完了。堰堤は平成31年度完成を目指し計画中。	平成34年度の概ね5年の完成目標

平面図



砂防堰堤完成イメージ

ワイヤーネット工（汐井谷川）

捕捉事例

土砂止め工（本村川）